

第23週の発生動向(2005/6/6~2005/6/12)

1. 咽頭結膜熱は、むつ保健所管内と上十三保健所管内において引き続き**警報**が出されています。
2. 水痘は、むつ保健所管内に**警報**が、五所川原保健所管内に**注意報**が出されました。
3. 手足口病は、弘前保健所管内に**警報**が出されました。
4. 伝染性紅斑は、青森保健所管内において引き続き**警報**が出されています。

第23週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ			4	0.25									4	0.06	-18
(60) 咽頭結膜熱	3	0.38							5	0.83	1	0.25	9	0.21	-5
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	1.50	12	1.20	2	0.22	2	0.40	8	1.33			36	0.86	-35
(62) 感染性胃腸炎	41	5.13	5	0.50	6	0.67	1	0.20	15	2.50	18	4.50	86	2.05	-14
(63) 水痘	12	1.50	17	1.70	18	2.00	24	4.80	14	2.33	29	7.25	114	2.71	6
(64) 手足口病	1	0.13	51	5.10	15	1.67	3	0.60	3	0.50			73	1.74	35
(65) 伝染性紅斑	20	2.50			1	0.11			4	0.67	4	1.00	29	0.69	4
(66) 突発性発しん	4	0.50	8	0.80	3	0.33	2	0.40	6	1.00	1	0.25	24	0.57	9
(67) 百日咳															
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	
(69) ヘルパンギーナ	3	0.38	2	0.20					3	0.50			8	0.19	
(70) 麻しん(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.25	2	0.20	4	0.44	6	1.20	11	1.83	1	0.25	26	0.62	6
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					2	1.00							2	0.18	-8

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
  は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人 (17年計 46人)  
 (29) つつが虫病(四類全数把握疾患) むつ保健所管内: 1人 (17年計 3人)

感染症の窓

インフルエンザ2004/2005シーズン

図1. 過去10年間のインフルエンザ定点当たり報告数(全国)

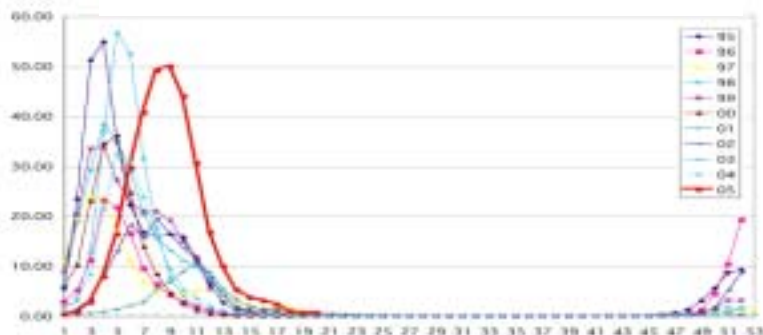
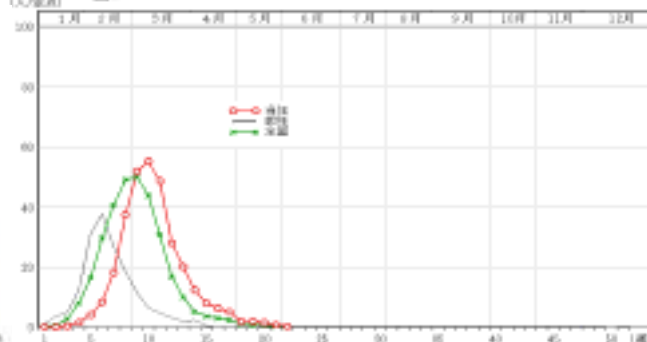


図2. 平成17年 定点当たりの患者数 年次比較図 (【07/6/17】)



今シーズンのインフルエンザ流行の大きな特徴は、立ち上がりが例年に比べて遅かったにもかかわらず、ピーク時における定点あたりの患者数が、過去10年間で3番目に多く報告されました(図1)。ウイルスはB型とAH3型が分離され、2種類のウイルスによる混合流行が、規模を大きくしたと思われます。青森県は、全国よりさらに遅く立ち上がり、定点当たりの患者数は、全国を上回りました(図2)。

近年、インフルエンザウイルス感染による脳症が注視されており、例年A型インフルエンザ(特にAH3型)に多いとされてきましたが、今シーズンはB型の報告例があり、第14週までは全国で36名(A型:6名、B型:24名、不明:6名)でした。なお、青森県での報告例はありませんでした。

(参考:国立感染症情報センター週報)